

## どんな活動が必要か

……わが党に属する学生グループは、この運動を支持し、利用し、拡大することに全力をそそがなければならない。社会民主党が原始的な運動形態にあてるあらゆる支持と同じように、この支持もまたなによりも、また主として、紛争によってめざめ、いたるところでこの形態の紛争のなかで**最初の**政治的紛争を体験している**より**広範な層にたいして思想的・組織的な働きかけをおこなうことでなければならない。なぜなら、最近二年間に大学に入学してきた学生青年は、ほとんどまったく政治からきりはなされた生活をしてきたし、狭い大学自治主義の精神で教育され、官学の教授や政府の出版物に教育されたばかりでなく、自由主義的ブルジョアジーとカデット党全体にも教育されてきたからである。こういう青年たちにとっては、広範なストライキ（もしこの青年たちに広範なストライキをはじめることができたなら！ われわれは、このことで彼らをたすけるために全力をつくさなければならない。しかし、もちろん、われわれ社会主義者は、あれこれのブルジョア的運動の成功をうけあうことはできない）は、闘争する者がそれを意識しようとしまいと、いずれにせよ、政治的紛争の始まりである。われわれの任務は、「学園」抗議者大衆にこの紛争の客観的意義を説明し、それを**意識的に**政治的紛争にするように努力し、学生の社会民主主義的グループの煽動活動を 10 倍にすることであり、また、彼らが三カ年の歴史からの革命的結論を身につけ、新たな革命的闘争の不可避性を理解し、専制の打倒と、憲法制定議会の召集というわれわれの古い——けれどもいまなおまったく現代的な——スローガンがふたたび民主主義派の若い世代の討議の対象となり、これらの世代の政治的結集の試金石となるような方向へ、この煽動活動**全体をむける**ことである。

社会民主主義的學生は、どのような条件のもとでもこのような活動を放棄する権利をもたない。そして、現在この活動がどんなに困難であろうとも、あれこれの大学や同郷人会や集会などで、あれこれの煽動者がどんな失敗を演じようとも、われわれはこう言おう。たたけよ、さらば、ひらかれん！ 政治的煽動の仕事は、けっしてむだに消えさってしまうものではない。その成功は、われわれがいますぐ即座に大多数を獲得したか、あるいは歩調のそろった政治行動にたいする同意をえることができたかどうかだけによって、はかれるのではない。おそらく、われわれは即座にこうした同意をえることはできないであろう。われわれは、一時的失敗でどぎまぎすることなく、ねばりづよく、たゆむことなく、首尾一貫して**自分の仕事**を遂行するからこそ、組織されたプロレタリア党である、と。……

そして、この始まりがどんなに弱く、萌芽的なものであろうとも、労働者階級の党はこれを利用しなければならないし、また利用している。われわれは、自分たちの革命的スローガンを初めはサークルにもちこみ、ついで労働者大衆のなかに、ついで街頭に、ついでバリケードにもちこみながら、革命前に何年も何十年も活動すことができた。われわれは**いまでも**なによりもまず、それなしには歩調のそろった政治行動についての論議も空文句になってしまうような、当面の任務であるもの、——すなわち、自身の革命的スローガンのためにあらゆるところで大衆のなかでの**政治煽動**をおこなう強固なプロレタリア組織を組織する能力をもたなければならない。大学のわがグループもまた、自分たちの学生仲間

のあいだで、この組織に、現在の運動を基盤とするこの煽動に、とりかからなければならない。

プロレタリアートは待たせはしない。彼らは、懇親会や合法団体では、大学の内部や代議機関の演壇では、しばしばブルジョア民主主義派に演説の先きをゆずることがある。だが、大衆の真剣な、偉大な、革命的な闘争では、彼らは、けっして先きをゆずりはしないし、またこれからもゆずりはしないだろう。この闘争が爆発するすべての条件は、われわれのうちのだれかれがのぞむほどはやく、またたやすくは成熟しない。けれども、これらの条件は、たえず成長し成熟しつつある。小さな学園紛争の小さな始まりでも、偉大な発端である。なぜなら、そのあとには、——きょうでなければ、あす、あすでなければ、あさっては——偉大なつづきがあるだろうからである。 注) ………は青山の略

第 15 卷 P202~205 『学生運動と今日の政治情勢』  
『プロレタリー』第36号、1908年10月3（16）日

## コメント

紛争の客観的意義を説明し、それを意識的に政治的紛争にするように努力し、社会民主主義的グループの煽動活動を10倍にすることであり、われわれの古い——けれどもいまなおまったく現代的な——スローガンがふたたび民主主義派の若い世代の討議の対象となり、これらの世代の政治的結集の試金石となるような方向へ、この煽動活動全体をむけなければならない。

どのような条件のもとでもこのような活動を放棄してはならない。現在この活動がどんなに困難であろうとも、あれこれの煽動者がどんな失敗を演じようとも、われわれはこう言おう。「たたけよ、さらば、ひらかれん！ 政治的煽動の仕事は、けっしてむだに消えさってしまうものではない。その成功は、われわれがいますぐ即座に大多数を獲得したか、あるいは歩調のそろった政治行動にたいする同意をえることができたかどうかだけによって、はかれるのではない。われわれは、一時的失敗でどぎまぎすることなく、ねばりづよく、たゆむことなく、首尾一貫して自分の仕事を遂行するからこそ、組織されたプロレタリア党である、」と。

この闘争が爆発するすべての条件は、われわれのうちのだれかれがのぞむほどはやく、またたやすくは成熟しない。けれども、小さな学園紛争の小さな始まりでも、偉大な発端となる。だから、私たちは、自身の革命的スローガンのためにあらゆるところで大衆のなかでの政治煽動をおこなう強固なプロレタリア組織を組織する能力をもたなければならない。